



明化の教育

11月号(第494号)
令和3年11月2日
文京区立明化小学校
校長 熊倉 勝

「子供が子供を育む」あこがれの存在を

校長 熊倉 勝

秋の澄み渡った青い空に、5、6年生によるパレードの演奏が響き渡り、子供たちの心を一つにした隊形移動は、見ている者に大きな感動を与えたことと思います。



明化スポーツフェスティバルでは、オリンピック・パラリンピック種目にも挑戦しました。

さて、10月30日に明化スポーツフェスティバル、体育学習発表会、パレードを無事行うことができました。保護者の皆様には、子供たちの発表に大きな拍手をいただき、ありがとうございました。

文京スポーツセンターで行ったスポーツフェスティバルは今年度2回目を迎え、昨年度に引き続き専門家をスタッフとして、8種類のスポーツをブースに分け、子供たちが自由にブースを回り、スポーツ体験を行いました。事前体験学習を行っていることもあり、自分の好きな種目に果敢に挑戦する姿がありました。また、10m走やダブルダッチの最高記録を目指して何回もチャレンジする姿は圧巻でした。今年度新設した「陸上記録展示コーナー」では、走り幅跳びや高跳びの実際の陸上世界記録や100mの世界記録保持者の歩幅を表した展示を見て、

世界記録の大きさを実感し、驚きの表情をしていました。1時間半ほどの活動でしたが、思い切り体を動かし、十分スポーツに親しむことができましたと感じています。

本校体育館で行った体育学習発表会では、新型コロナウイルス感染症対策と練習場所の関係で学級毎の発表となりましたが、子供たちが笑顔で生き生きと表現する姿が印象的でした。当日は、当該学級の保護者のみの鑑賞としたため、他学年の発表については、リハーサルの時に鑑賞しました。子供たちは、お互いに刺激を受け、本番に力が入ったことは間違いありません。晴天の下、絶好のコンディションで実施できたパレードは、天気も祝福しているようでした。短期間での練習でしたが、心を一つにした迫力のある素晴らしいパレードでした。今回、林町小学校の校庭をお借りしての実施でした。林町小学校の関係の皆様には、感謝の言葉しかありません。子供たちもパレードを実施できる喜びと支えてくださった方々への感謝の気持ちを十分に表すことができたと確信しています。残念ながら、今回は4年生の子供たちしか見ることができませんでしたが、4年生は先輩の素晴らしさを目の当たりにして、来年度への期待感をもつことができたと感じています。

このパレードは子供たちのあこがれになっています。他にも本校には、伝統として「あこがれの存在」があります。その一つが器楽部です。4年生から入部できるのですが、「4年生になったら器楽部に入りたい。」と思っている子供たちは多くいます。また、全校朝会で「静心の鐘」を鳴らして、教育目標を唱える活動も同様です。さらに、6年生が1年生のお世話、委員会・クラブ活動、たてわり班活動などで最高学年としての自覚をもった行動を随所に見せてくれています。昨年からのコロナ禍により活動に制限がある中、できることを精一杯行い、最高学年らしさを発揮することができています。

このような「あこがれの存在」は、子供の心を動かします。あこがれる側は、あこがれの存在を目指して頑張ろうとします。また、あこがられる側もよりよい姿を見せようと頑張り、自然と高め合うことができている。まさしく「子供が子供を育む」姿です。今後もこのような姿を通して、やり通すところからだを育てていきたいと思っています。